

平成25年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力を持った生徒を育成する。	① 計画的、効率的な授業の展開	1	普段の授業の中で折に触れてシラバスを活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。また、次年度に向けて内容を厳選・簡素化し、生徒にとって使いやすいものにする。	「シラバスを活用し、計画的な学習ができるように努めている」肯定的評価60%以上	肯定的評価:生徒20%, 教員80%。3学期に次年度に向けてシラバスの内容について検討会を開き改訂を進めた。	C	B	B	シラバスについては、生徒が計画的かつ主体的に学習できるよう、さらに検討する必要がある。
		2	始業のチャイムを守り、授業時間の確保を図る。	「始業チャイムと同時に授業を始められている」肯定的評価90%以上	肯定的評価:生徒97%, 教員98%。50分授業については、2,3年生の肯定的評価:60.6%。	A			次年度以降も、授業を大切に意識付けを徹底する。
	② 指導方法の工夫・改善	1	教員相互の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	「授業力向上に授業公開・参観授業を役立てることができた」肯定的評価80%以上	肯定的評価:97%。11月を授業公開期間とし、期間を延長して実施した。	A	B	(所見) 公開授業週間での教員相互の授業参観や教科会での話し合いは、授業内容や指導方法の工夫・改善につながっており、今後も続ける必要がある。	次年度は、もう少し余裕を持たせた実施期間にすることも必要である。
		2	各教科で定期的に教科会を開催するなど、学習指導の方法の工夫や改善について検討する。	「説明の仕方がわかりやすい授業である。」肯定的評価80%以上 「教科会を指導の方法の工夫や改善につなげることができた」肯定的評価70%以上	肯定的評価:90.7%。目標を達成できた。 全ての教科会を同じ日程で実施できなかったため、各教科で時間の調整をして実施した。	A B			次年度も授業力のさらなる向上を目指す。
		3	評論文の読解力を養い、自分の言葉で表現する力を育成する。	記述模試における全国偏差値において前年度を上まわる。	11月の記述模試における校内平均点の全国偏差値は前年度比で3年生で+2.0, 2年生で+1.1, 1年生で+1.1ポイントであった。	A			教科会の実施については、各教科で工夫して実施する必要がある。
		4	答案の書き方指導を通して、論理的に思考する習慣を育成する。	11月の記述模試における校内平均点の全国偏差値は前年度比で3年理系で-1.5, 文系で-2.8, 2年生で+2.0, 1年生で+1.1ポイントであった。	11月の記述模試における校内平均点の全国偏差値は前年度比で3年理系で-1.5, 文系で-2.8, 2年生で+2.0, 1年生で+1.1ポイントであった。	B			一層語彙を増やし、読む速度と論旨を要約する力の向上を図る。
		5	積極的に資料等を使い、公民への興味関心を持たせ、学習意欲の向上につなげる。	「公民への興味関心のある生徒」肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価70%。板書の工夫や資料の効果的な利用などを通して生徒の意欲を高める指導を行った。	B			3学年において実践力を高める必要がある
		6	定期的に課題や反省ノート(定期考査・実力テスト・校外模試)を提出させて、学習内容の定着を図る。	「課題や提出物は期限を守って提出している」肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価:78.9%。概ね達成できた。しかし、反省ノートは提出するだけで満足し、学習内容の定着には至っていない場合もある。	B			次年度もさらに教材研究に取り組み、生徒の興味関心の持てる授業の工夫をする。
	③ 学習習慣の確立	1	小テストを毎週実施し、主体的に学習する生徒を育成する。	「授業の予習・復習をしている」肯定的評価50%以上 「確認テスト・小テスト反省ノートは役だった」肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価:予習31.3%, 復習51.9。大半の生徒が依然授業に対して受け身である。 生徒の肯定的評価:72.5%。概ね達成できた。	C B	B	公開授業や教科会を定期的に行う中で、互いに情報を共有し、それぞれの教科指導の工夫・改善にいかしてほしい。	入学当初から予習・授業・復習の学習習慣の定着を図り、年度初めに徹底した指導をしたい。
		2	授業に活かせる家庭学習のあり方の指導を徹底する。	小テストの合格者が70%以上	1・2年生では生徒が取り組みやすい範囲設定を工夫し、合格率70%以上を達成できた。	B			小テストの意義を確認させ、さらに主体的取り組みが行われるよう、指導すべきである。
	④ 目的意識を持った学習態度の育成	1	予習・復習を促す週末課題を作成し、自主的・計画的な学習の習慣を育成する。	「週末課題は学習の習慣化に役立った」肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価:64.2%。遅れて提出する生徒もあり、学校に残ってこなす場面も見られた。	B	B	生徒が主体的に取り組める課題などを用意して、計画的に家庭学習を行うよう指導し、学習習慣の定着をさらに図ってほしい。	教科間で量的な検討をする必要がある。
		2	定期考査・実力テスト・校外模試を学力の把握に活用し、学習に対する向上心を高め、目標実現に向けて努力させる。	「定期考査・実力テスト・校外模試等の反省・復習を行っている」肯定的評価:70%以上	生徒の肯定的評価:64.9%。反省や復習が十分に行えていない。	C			考査→実テ→模試のサイクルを確立することで入試に必要な学力が身につくことを理解させる必要がある。
	⑤ 家庭学習の充実	1	家庭学習時間調査を実施し、家庭における学習時間が確保できるよう指導する。	全生徒の年間平均家庭学習時間2.7時間以上, 3年生3.5時間以上, 2年生2.5時間以上, 1年生2.5時間以上	5回の調査の平均家庭学習時間(平常日):1年2.4時間(昨年度比-0.1), 2年2.5時間(同+0.1), 3年3.6時間(同-0.2), 全学年平均2.8時間(同-0.1)	A	A	学習時間数ほどの学年も昨年より減少気味であるが、1時間未満の生徒は減少した。予習・復習だけでなく実力テストの勉強や週末課題への積極的な取り組みがされれば、全体的に増加するはずである。	昨年並みの結果であり、ほぼ目標は達成しているが、学習習慣の形成に向けて継続的に働きかけていく必要がある。
		2	学年集会などを利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、家庭での学習習慣を定着させる。	家庭学習時間調査による1時間未満の生徒の割合を全体の5%以下にする	1・2学年合わせて3.9%。全体の平均値は2.4~2.5時間とあまり高くなかったが、1時間未満の生徒は減少した。	A			課題以外の学習に取り組みさせる方策を検討する必要がある。
		3	HR活動の資料や学年通信、教室掲示物、配布物を通して進路情報をわかりやすく提供する。	「進路情報は充実している」肯定的評価70%以上	肯定的評価:生徒63.4%(昨年度比+4.3), 保護者78.1%(同+4.4)と前年度より少し数値は上がった。	B			教員の進路に関する面談力を向上させることを主眼として、情報提供やクラス・教科担任団との連携を図っていく。
	⑥ 興味・関心を高める教育	1	生徒の日常生活に密着したテーマを取り上げ、習得した知識や技能を自分自身の生活にいかし、行動しようとする意欲を養う。	「学んだことを生活にいかし、行動したい」肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価:93.7%。目標は達成できた。	A	A	学習したことを生活に活かしていくための具体的方策を生徒自身から引き出していく授業展開が必要である。	学習したことを生活に活かしていくための具体的方策を生徒自身から引き出していく授業展開が必要である。
		2	衣食住生活や保育に関する実験・実習を積極的に取り入れ、自分自身の生活を主体的に創造していく力を身につけさせる。	「実験・実習への意欲、満足度」肯定的評価80%以上	調理・被服製作・保育の実習を積極的に取り入れたことで、生徒も意欲的に実習に取り組み、90%の肯定的な評価が得られた。	B			実習を能率良く進めていくために、実習時期や内容を再検討する必要がある。
		3	教材を工夫し、生徒の興味・関心を高める、わかりやすい授業を行い、確かな学力を定着させる。	「授業の内容やレベルは適切である」肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価:93.9%。使用した教材への興味・関心も高かった。	B			各分野で学習することを社会での問題につなげて考えさせる授業の展開が必要である。
		4	魅力あるSSH事業を展開し、知的好奇心を向上させる。	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価:68%。目標を達成した。	A			各事業の改善を図るとともに、より組織的に事業に取り組む。
	⑦ 家庭との連携	1	P T A総会や学年P T Aへの積極的な参加を促す。	「保護者のP T A総会・学年P T Aの参加者数」前年度比5%アップ	「保護者のP T A総会への参加者数」前年度比5%アップは達成した	A	B	活動状況については、学校行事以外にも部活動や学年で記事を更新することで活用頻度が上がると考えられるので、多くの先生が記事投稿できるように研修会を開く必要がある。	さらなる参加を呼び掛けていく必要がある。
		2	ホームページの更新を迅速に行い、教員への更新の講習を行うとともに、ホームルーム、三者面談、総会などで広報活動を行う。	「ホームページで学校生活の様子や連絡等の情報を得ることができる」肯定的評価70%以上	ホームページでの情報活用で、活動状況の閲覧は、生徒49%・保護者62.8%。行事予定の閲覧は、生徒27.8%・保護者45%で肯定的評価70%以上は達成できなかった。	B			さらなる参加を呼び掛けていく必要がある。

【備考】「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

平成25年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
2 夢を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	① 望ましい職業観・早期の進路意識の育成	1	W-ingプラン/SW-ingプランの活動、職業調べ、学部・学科研究、講演会等に積極的に取り組ませる。	「W-ing/SW-ingプランの進路学習は進路選択に役立った」肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価：60.8%。目標値には届いていない。	C	B	インターネットは手軽で便利に情報を得ることができ、誤報、誤解や偏見を与える情報、不正確情報などがある。また、スマートフォンは学習時間とのメリハリをつけながら、有効に活用して欲しい。	W-ing/SW-ingプランを統合的に再編成し、進路学習も含めて個々の活動を充実させていく。
		2	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」肯定的評価60%以上	肯定的評価：59.7%。目標をほぼ達成できた。	B			さらに充実した内容になるよう、各種事業の改善を図りながら取り組む。
		3	校誌「道標」の内容の充実を努めるとともに、各種の進路情報をわかりやすく提供する。	「道標などの進路情報は充実している」肯定的評価70%以上	肯定的評価：生徒63.4%、保護者78.1%。前年度比で少し数値は上がった。	B			「道標」では、進路環境の変化と生徒のニーズに応じて、内容を改訂していく。
	② 個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	1	三者面談に加え、必要に応じて個別面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	「面談や個別指導を通して、生徒に応じた進路指導ができている」、「先生は面談などを通して、進路についてよく指導してくれている」共に肯定的評価80%以上	肯定的評価：生徒83.8% 保護者80.6%。目標値を達成した。	A	B	(所見) W-ingプラン/SW-ingプランの活動が進路選択の資料となるよう、さらに充実させていく必要がある。また、小論文やプレゼン・ディベート学習の再編成も必要である。	より効果的な面談の方法や、それを実現するための体制作りを行う。
		2	小論文・ディベート・プレゼン学習の充実を図る。	「小論文・ディベート・プレゼン学習は自らのスキルアップに有益である」肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価：62.1%。目標値に届いていないが、今年度初めて試みたプレゼン学習では、2年生が校外の大会に参加し、優秀な成果を上げることができた。	B			小論文、ディベート、プレゼン学習を含む、教科外の学習活動内容を再編成する必要がある。さらに、SSH事業との連携を密にすることによって効率的かつ実効性のある活動にしていく。
	③ 生徒保護者が希望する進路目標の達成	1	日常の取り組みを学習成績に反映させ、進路実現に結びつける。	「生徒・保護者の希望の高い国公立大学への合格者数」在籍数の50%以上	国公立大合格者102名（3月24日現在）。在籍数の47.7%	B	B	面談や個別指導に関しては、概ねよい評価である。さらに、きめ細やかな指導を要する。	進路希望実現に向けて、さらに日々の取り組みを徹底させる必要がある。
		2	学習と部活動の両立を図りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	「部活動顧問は各種大会に向けた調整を行うとともに、生徒の学習状況を考慮して活動時間を設定している」肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価74%。目標の80%には届かなかったが多数の部活動を展開している本校としてはおおむね達成できたと考える。	B			遠距離の通学生への下校時間などの配慮等がより必要である。
	④ 将来、社会において活躍しうる協高生の育成	1	学校祭や球技大会などの学校行事へ積極的に参加することにより、協働意識を高める。	「学校祭や球技大会は生徒中心の運営で充実している」肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価86.9%。目標は達成できた。	A	B	生徒会活動などが生徒の主体的な活動になるよう、支援する必要がある。	今後も生徒が主体的に運営する本校のシステムを継続できるよう支援する。
		2	ホームルーム活動や生徒会活動を通して社会性を育てる。	「生徒会活動は学校生活がよりよくなるように活発に活動できている」肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価：65.7%。生徒会の構成メンバーの資質にも関係するが、もう少し指導を強化する必要も感じる。	B			後期の生徒会役員の活動内容の充実が求められる。
	⑤ 将来、社会に貢献しようとする人材の育成	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	「各種ボランティア活動には積極的に参加している」肯定的評価50%以上	生徒の肯定的評価：55.1%。目標は達成できたが、今後も意識を高める活動を援助していきたい。	A	B		今後もボランティア活動への積極的な参加の啓発が必要である。
		2	修学旅行の自主研修「企業・官公庁等訪問」やその事前研究、事後発表を充実させ、社会への関心を高める。	「修学旅行の自主研修に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」肯定的評価70%以上	服装・頭髪の規定を守り、企業訪問や都内自主研修も班員が協力して行うことができた。研修レポートも全員提出できており、修学旅行の目的を達成できたと考える。	B			修学旅行の実施時期、行き先・自主研修の内容については、見直しの時期がきているのではないかと。
	⑥ グローバル化に対応できる人材の育成	1	生徒の英語学習への意欲を高めるとともに、国際理解教育の充実やコミュニケーション能力の向上を図る。	「国際理解を深める努力をしている」生徒の割合が80%以上	生徒の肯定的評価：43.7%。国際理解や活動に積極的に取り組んでいる生徒が少ない。	C		英語の授業の充実を図るとともに、国際理解に関する講演会や催し物の案内を工夫し、生徒が意欲的に取り組める機会を増やす。	

平成25年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
3 自尊感情を養い、仲間と協働できる心豊かで公共心と社会性を備えた たくましい生徒を育成する。	① 環境美化・防災に対する意識の向上	1 清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組み、快適な環境で学習する。	「ごみの分別は正確にするよう心がけている」肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価：83.1%。目標をほぼ達成できた。	B	B	B	身だしなみ指導の成果が現れている。登校時間帯、正門前が保護者の車で混雑し、非常に危ない。送迎する保護者が年々増加傾向にあるようなので、今後とも交通安全や交通マナーについての徹底した指導をお願いしたい。	ごみの分別は正確に出来るようになってきた。古紙の収集も定着してきている。引き続き取り組みたい。
		2 参加体験型訓練など、体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を持ち、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	「防災訓練には、関心を持って積極的に参加している」肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価：61.4%。防災に関しての意識は少し低い。防災訓練に、関心を持って参加する生徒をもう少し増やしたい。	B				参加体験型訓練など、生徒の体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を常に持ち、いざという時に行動出来るように指導する。
	② 集団や社会の一員として協力	1 各課や学年との連携を密し、ホームルーム活動の内容を充実させる。	「ホームルーム活動の時間は活発な雰囲気積極的に取り組んでいる」肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価：70.7%。目標は達成できたが、クラス経営の核になる活動なので今後も内容を充実させたい。	A	A	A	(所見) 身だしなみ指導や交通安全教育は、全教職員が歩調を合わせて継続的に指導してきたことの一定の成果を上げている。今後も社会人として必要な態度や習慣の育成に励む必要がある。個々の生徒の悩みに対応するため、教職員が情報の共有を図り、組織的に指導することができた。	担任の先生方が展開しやすい方策を日々求めていく必要がある。
		2 部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、協力できる生徒を育成する。	「部活動を通して好ましい人間関係ができていく」肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価：83.8%。様々な配慮をする中で、目標値に近づきつつある。	B				顧問の努力だけでなく、それをサポートする側がいろいろと方策を考える必要がある。
	③ 基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進	1 身だしなみについて、各クラス・各学年・学校全体で指導を強化する。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	「常に校則を守ることを心がけている」肯定的評価80%以上	肯定的評価：生徒85.8%、保護者86.6%、教職員90.2%。目標を達成できた。	A	A	A	学校・教職員・高校生として災害時にどう動くか、平日昼間・休日・夜間など、あらゆる時間帯での災害を想定して、迅速かつ適切に行動できる訓練や役割分担をしておく必要がある。	生徒指導に向けて教職員一同が共通理解を持ち、さらに取り組みを充実させるような方策を検討したい。
		2 バイクの安全運転実施講習会を開き、車体検査を各学期に行う。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	「交通安全・交通マナーについては日ごろから十分に意識し、守っている」肯定的評価90%以上	肯定的評価：生徒85.1%、保護者88.1%、教職員96.1%。目標を達成できなかった。	B				各事業の改善を図るとともに、より組織的に事業に取り組む。
		3 すべての生徒について、個人面談や家庭連絡を密に行うとともに、関係機関との情報交換も密に行う。	「生徒の指導に関して、家庭と緊密に連携しながら適切に対処できている」肯定的評価80%以上	教職員の肯定的評価：90.2%。目標を達成できた。	A				さらに取り組みを充実させるよう、方策を検討したい。
	④ 保健指導の充実	1 時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	「保健だよりの発行」年間10回以上	保健だより（生徒の肯定的評価：61.1%）は生徒用：年10回、教員用：年1回発行。熱中症対策とインフルエンザ対策の資料を教職員に配布し、生徒への保健指導に役立ててもらった。集団指導を年3回と、健康教育講演会を1回実施した。	A	A	A	人権教育HRの公開などにより、指導方法の工夫もつながったと思われる。「保健だより」や「図書館だより」を配布する中で、生徒の健康意識の高まりや読書習慣の定着につながるよう、教職員が声かけをしていく必要がある。	生徒・保護者・教職員に対して、興味関心の高いテーマや新しい情報を取り入れた保健だよりを発行するように努める。学校の実態や課題に即した集団指導や個別指導を取り入れていく。
		2 計画的・能率的に健康診断を実施するとともに、事後指導を徹底する。	生徒全員が定期健康診断を受診し、適切な事後管理ができる。	全員が定期健康診断を受診することができた。歯科・眼科・耳鼻科等の要治療者の受診結果の提出率が低かった。	B				担任・保護者と連携し、検査や治療の必要な生徒が確実に受診できるように努め、事後指導を徹底させる。
		3 教職員に加え、部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実に努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」肯定的評価90%以上	教職員の肯定的評価：94.1%。教職員救急法講習会を実施し、学年毎に実地訓練をした。	A				教職員救急法講習会の内容を工夫したり、緊急時の対応について共通理解を図れるように周知する。生徒対象の救急法講習会の内容を充実させる。
	⑤ 教育相談及び特別支援教育の充実	1 教育相談活動について生徒や保護者への周知を図るとともに、生徒の悩み相談を行い、生徒の自立を支援する。	「自分の悩みなどの相談がしやすい環境にある」肯定的評価80%以上	肯定的評価：生徒82.0%、保護者84.5%。目標を達成した。	A	A	A	PTA総会については、共働きかつ厳しい仕事環境にある人の参加が難しい現状があるようだ。総会時の人権問題講演会については、何かに特化したものではなく、あらゆる問題に対応できるような内容を扱う必要がある。	引き続き生徒の自立を支援する相談活動を充実させる。教員の専門性を高めるとともに、スクールカウンセラー事業等の外部との連携をより一層図る。
		2 不登校生や悩みのある生徒について、早期の発見に努めるとともに、情報の共有化を図るなど、組織的な指導体制を整備する。	「不登校生への対応が組織的に整っている」肯定的評価90%以上	「生徒や保護者の相談に誠実に対応できている」教職員の肯定的評価:98%。「不登校生や悩みのある生徒に対して組織的に対応している」教職員の肯定的評価:100%。	A				本年度は保健室で昼休みに相談を行うように変更することによって、生徒の情報収集や相談に適切に対応することができたので次年度以降も継続する。
		3 計画的に教育相談や特別支援教育に関する研修を行い、教員の専門性を高める。	「教育相談・特別支援に関する研修会は生徒の指導に役立つ」肯定的評価80%以上	教職員の肯定的評価：98%。「発達凸凹について」という題で、発達障害について具体的事例をもとにした研修を行った。	A				不登校生の早期発見のために1年生5月に心理テストを実施することで、生徒自身の自己理解や担任による生徒の人間関係の把握に利用する。
	⑥ 人権教育の推進	1 人権問題講演会・「脇高人権の日」を実施するとともに、PTA総会や保護者面談等を通し、人権問題について啓発する。	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価：69.0%。目標を達成することができなかった。	C	B	A	人権学習ホームルーム活動や人権の日で取り上げる内容を精選し、さらに生徒の生活に密着した活動にしたい。	人権学習ホームルーム活動や人権の日で取り上げる内容を精選し、さらに生徒の生活に密着した活動にしたい。
		2 人権学習ホームルーム活動の指導案、資料の共有化を図るとともに、参加型体験学習など体験を重視した指導を行う。	「人権学習ホームルーム活動は充実している」肯定的評価85%以上	人権学習ホームルーム活動後に実施している自己評価の集計を見ると、全学年で主体性・理解度も肯定的な評価が85%以上であった。	A				次年度も参加型体験学習を積極的に取り入れ、生徒が主体的に活動できる人権学習ホームルームを計画したい。
	⑦ 感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	1 図書館活動を活発に推進し、読書への関心を高め、感性豊かな生徒を育成する。	「普段から読書に親しむように心がけている」肯定的評価70%以上	肯定的評価：生徒49.8%、保護者45.7%、教職員84.3%。目標を達成できなかった。	C	C	C	国語の授業の充実を図るとともに、図書館便りや読書に親しめる環境づくりを工夫し、生徒が意欲的に取り組めるよう方策を検討したい。	